

試験経過記録(その2)

任意

申間 営林署

(様式4)

昭和62年8月 A.B.Cブロックの、再発生ぼうがの芽かき および 調査に支障となる雑草の刈払を行い、対照区2.96HA内の6プロット(6×5m)について、クス・タブ・カン類の根株各30本の径級調査とぼうが発生調査を行った。

昭和62年12月 各調査区の生長量調査 および 植生調査を行った。

昭和63年11月 各調査区の生長量調査 および 植生調査を行った。なお、施業工程は《表-3》のとおり。

平成元年1月 営林局業務研究発表会において、研究発表(中間)を行い、「営林局長賞」を受賞した。

平成元年10月 林野庁業務研究発表会において、研究発表(中間)を行い、「日本林業技術協会理事長賞」を受賞した。

平成元年12月 各調査区の生長量調査を行った。《表-2》

表-2 樹種別成長量調査

試験区	芽かき実行区				植栽区	対照区	摘要
	Aブロック	Bブロック	Cブロック	計			
面積	0.37 HA	0.60 HA	0.45 HA	1.42 HA	0.53 HA	2.96 HA	
仕立本数	2本仕立	3本仕立	4本仕立		800本		
HA当本数	1.119本	1.020本	1.029本		1.500本	4.500本	
	本数 直径 樹高	本数 直径 樹高	本数 直径 樹高	本数 直径 樹高	本数 直径 樹高	本数 直径 樹高	
クス	61	242 2.2 1.5	174 2.4 1.7	180 2.2 1.7	596 2.3 1.6	100 1.5 0.5	24 2.2 1.6
	62	2.8 1.9	2.9 2.2	2.9 2.0	2.7 2.0	1.6 0.7	2.4 1.8
	63	3.7 2.4	3.9 2.6	3.3 2.4	3.6 2.4	1.7 1.0	2.5 1.9
	元	4.1 2.5	4.4 2.9	3.9 2.8	4.1 2.7	2.5 1.3	2.9 2.1
タブ	61	92 2.4 2.0	135 2.7 1.9	106 2.5 1.7	333 2.5 1.9		41 2.2 1.6
	62	3.5 2.1	3.5 2.4	3.5 2.3	3.5 2.3		2.6 1.8
	63	5.0 2.6	4.7 2.9	3.9 2.6	4.5 2.8		3.3 2.2
	元	5.1 2.7	5.3 3.2	4.3 2.8	4.8 2.9		3.8 2.4
カンシ	61	30 1.8 1.7	121 1.7 1.6	109 1.5 1.7	260 1.7 1.7		41 1.3 1.3
	62	2.0 2.0	2.3 2.2	2.5 2.2	2.4 2.2		1.7 1.7
	63	3.4 2.6	3.6 2.8	2.8 2.5	3.2 2.7		2.3 2.0
	元	4.4 2.8	4.0 3.1	3.2 3.0	3.6 3.0		3.0 2.3
サクラ	61	48 2.3 2.3	140 2.2 2.4	48 2.1 2.2	236 2.2 2.3		29 1.4 1.6
	62	2.6 2.8	2.7 2.8	2.9 2.6	2.7 2.8		1.9 1.9
	63	3.6 3.0	3.5 3.0	3.2 2.9	3.5 3.0		2.2 2.2
	元	3.6 3.0	3.5 3.3	3.5 3.3	3.5 3.2		2.3 3.1
広	61	2 1.7 1.2	42 2.0 1.8	20 1.4 1.3	64 1.7 1.4		12 1.2 1.0
	62	4.1 2.1	3.0 2.7	2.8 2.1	2.9 2.5		1.7 1.6
	63	4.7 2.8	4.2 3.0	3.6 2.7	4.0 2.9		2.1 2.1
	元	4.9 3.8	4.4 3.1	4.1 3.0	4.2 3.1		2.7 2.7
計	61	414 2.1 1.7	612 2.2 1.9	463 1.9 1.7	1489 2.1 1.8		147 1.7 1.4
	62	2.6 2.1	2.9 2.4	2.9 2.2	2.8 2.2		2.1 1.8
	63	3.9 2.5	4.2 2.8	3.3 2.6	3.8 2.6		2.5 2.1
	元	4.3 2.6	4.3 3.1	3.8 2.9	4.1 2.9		3.0 2.5

表-3 保育の工程

試験区	面積	保育								功程 /HA
		61年度		62年度		63年度		計		
		芽かき	下刈	芽かき	下刈	芽かき	下刈	芽かき	下刈	
Aブロック (2本仕立)	0.37	1.500	1.000	0.875	1.500	-	0	2.375	2.500	13.2
Bブロック (3本仕立)	0.60	1.500	1.125	0.500	2.000	-	0	2.000	3.125	8.5
Cブロック (4本仕立)	0.45	2.000	1.000	0.625	1.500	-	0	2.625	2.500	11.4
計	1.42	5.000	3.125	2.000	5.000	-	0	7.000	8.125	10.7
植栽区	0.53	-	3.875	-	4.750	-	3.125	-	11.750	22.2

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区分 任意

串間

営林署

(様式6)



<写真左>

全影

後方は対照区.



<写真上> クス新植 4年目の大,中,小

状 況 写 真

区 分 任意

串 間 營 林 署

(様 式 6)



クヌ ほら蒭 4年目

状 況 写 真

区 分 任意

串 間 営林署

(様 式 6)



カシ ぼうが 4年目

試験経過記録

区分 任意

串間 営林署

(様式4)



タブ ぼう菜 4年目

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

技術開発完了報告

課題名	広葉樹優良林分を造成するための施業法																		
指示区	自主分	任意	開発期間	5.61~H.2	担当	造林課													
目標	天然広葉樹皆伐跡地における、有用広葉樹の用材林育成方法の確立をはかる。																		
結果	1. 成長量 別紙<表-2>に示すとおり、クスの芽かき区と対照区とを比較すると、樹高成長では、芽かき実行区の平均1.3m(181%)に対し、対照区では、0.7m(124%)の伸びを示し、		技術開発経費内訳																
			<table border="1"> <tr> <td><人工></td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>物件費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基 礎<〇〇></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他<—></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計<〇〇></td> <td></td> </tr> </table>				<人工>	千円	物件費		役務費		人件費		基 礎<〇〇>		その他<—>		合計<〇〇>
<人工>	千円																		
物件費																			
役務費																			
人件費																			
基 礎<〇〇>																			
その他<—>																			
合計<〇〇>																			
<p>調査経過と調査内容 <u>まとめ</u></p> <p>肥大成長では、芽かき実行区の平均2.3m(200%)に対し、対照区では、1.0m(125%)の伸びを示しており、樹高、肥大成長共に芽かき実行区の成長が優れている。</p> <p>なお、植栽区との対比では、調査当初の調査木の成長に差があるので、一既の判断出来ないうが、現状では、芽かき実行区の成長量が優れている。</p> <p>特に、植栽初期の野兔による食害があることを考えると、有用広葉樹の多い天然林跡地では、天然更新が有利である。</p> <p>タブ、その他についても、芽かき実行区の成長量が優れている。</p> <p>2. 仕立本数については、今後の成長量、材質等の推移を見て検討する必要がある。</p>																			

開発経過と調査内容

別紙「試験経過記録」のとおり。

評価及び普及指導